

令和5年度 病害虫発生予察情報 第6号(9月予報)

群馬県農業技術センター
 環境部 発生予察係
 (病害虫防除所)
 TEL 0270-62-1059
 FAX 0270-20-8016

【予報の概要】

作物名	病害虫名	対象地域名	発生時期	発生量
作物全般	アブラムシ類	栽培地帯全域	—	並
イネ	いもち病(穂いもち)	普通期栽培地帯	—	やや少
	紋枯病	普通期栽培地帯	—	やや多
	もみ枯細菌病	普通期栽培地帯	—	並
	稲こうじ病	普通期栽培地帯	—	並
	斑点米カメムシ類	普通期栽培地帯	—	並
	ツマグロヨコバイ	普通期栽培地帯	—	並
	セジロウンカ	普通期栽培地帯	—	並
	ヒメトビウンカ	普通期栽培地帯	—	並
	ごま葉枯病	普通期栽培地帯	—	並
白葉枯病	普通期栽培地帯	—	並	
ダイズ	吸実性カメムシ類	栽培地帯全域	—	並
	フタスジヒメハムシ	栽培地帯全域	—	並
	マメシンクイガ	栽培地帯全域	—	並
	紫斑病	栽培地帯全域	—	並
果樹全般	カメムシ類 (チャバネアオカメムシ)	栽培地帯全域	—	やや少
	ハダニ類	栽培地帯全域	—	やや多
リンゴ	斑点落葉病	栽培地帯全域	—	並
	炭疽病	栽培地帯全域	—	並
	スモモヒメシンクイ	栽培地帯全域	—	並
	キンモンホソガ	栽培地帯全域	—	並
ナシ	黒星病	栽培地帯全域	—	並
	ナシヒメシンクイ	栽培地帯全域	—	並
ダイズ 野菜類 花き類	ハスモンヨトウ	平坦地域	—	並
	オオタバコガ	栽培地帯全域	—	やや多
キャベツ	黒腐病	山間高冷地帯	—	並
	菌核病	山間高冷地帯	—	並
	コナガ	高冷地栽培地帯	—	並
	タマナギンウワバ	高冷地栽培地帯	—	並
夏秋ナス	ハダニ類	栽培地帯全域	—	並
	アザミウマ類	栽培地帯全域	—	並

作物名	病虫害名	対象地域名	発生時期	発生量
ネギ	軟腐病	栽培地帯全域	—	並
	シロイチモジヨトウ	栽培地帯全域	—	やや多
	ネギアザミウマ	栽培地帯全域	—	並
レタス	軟腐病	山間高冷地帯	—	並

(発生時期の—は連続発生)

【主な病害虫の発生予報と防除対策】

I) イネ

紋 枯 病	発 生 地 域	発 生 時 期	発 生 量
	普通期栽培地帯	—	やや多

1 予報の根拠

- (1) 現在までの発生量は平年並であるが、一部地域でやや多い。
- (2) 前年の発生量は、平年よりやや多かった。
- (3) 向こう1か月の気象予報（9月7日発表）によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みである。向こう1か月の平均気温は高い確率80%、降水量は平年並の確率40%である。

《発生しやすい条件：前年の発生量が多い場合。高温（適温28～32℃）、多湿、多肥栽培で生育が旺盛な場合。》

2 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤防除は株元まで到達するように散布する。
- (2) 気温が高くなることが予報されているので、病斑の進展に注意が必要である。
- (3) 病斑がイネの高い位置まで上がってきた場合、早急に防除する。

II) 果樹類全般

ハ ダ ニ 類	発 生 地 域	発 生 時 期	発 生 量
	栽培地帯全域	—	やや多

1 予報の根拠

- (1) 現在までのナシでの発生量は平年よりやや多い。リンゴでの発生量は平年並～やや多い。
- (2) 向こう1か月の気象予報（9月7日発表）によると、期間の前半は気温が、かなり高くなる見込みである。向こう1か月の平均気温は高い確率80%、降水量は平年並の確率40%である。

《発生しやすい条件：気温が高く、雨が少なく乾燥している場合。》

2 防除上注意すべき事項

- (1) ハダニ類は非常に繁殖能力が高く、高密度になると防除が困難になるので、早期発見に努める。
- (2) 薬剤散布は丁寧に行う。特にほ場の周縁部など薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等を行う。また、雑草に寄生するハダニは草刈り後は樹上に移動するため、草刈り後の1～2日以内の薬剤散布が効果的である。
- (3) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続散布を避ける。
- (4) 天敵を導入しているほ場では、土着のカブリダニの温存のため、株元を中心に下草を適度に残す。薬剤散布の際はカブリダニ等の天敵に影響の少ない薬剤を選択する。

Ⅲ) 野菜類・花き類

オオタバコガ	発生地域	発生時期	発生量
	栽培地帯全域	—	やや多

1 予報の根拠

- (1) 県内のフェロモントラップ調査では、8月の総誘殺数が7地点中5地点で平年より多い。
- (2) 向こう1か月の気象予報（9月7日発表）によると期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みである。向こう1か月の平均気温は高い確率80%である。

《発生しやすい条件：高温、乾燥条件で多発する傾向があり、梅雨期に降雨が少ない年には発生が多くなる。》

2 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫は生長点付近の茎葉・花蕾・花・果実を食害する。果実や花蕾、結球の内部に食入されると農薬がかかりにくくなるため、ほ場をよく見回り、幼虫は見つけしだい捕殺する。薬剤防除を行う場合は、若齢幼虫のうちに防除を行う。
- (2) 果菜類の被害果、レタスや花き類等の被害株は、内部に幼虫が生息している場合があるので、必ずほ場外へ持ち出して適切に処分する。
- (3) 雑草にも寄生するので、ほ場周辺の雑草を除去する。
- (4) 施設開口部は防虫ネットで被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- (5) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続散布を避ける。

Ⅳ) ネギ

シロイチモジヨトウ	発生地域	発生時期	発生量
	栽培地帯全域	—	やや多

1 予報の根拠

- (1) 県内のフェロモントラップ調査では、8月の総誘殺数が2地点中1地点で、平年より多い。
- (2) 一部の地域において、発生量が多い。
- (3) 向こう1か月の気象予報（9月7日発表）によると期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みである。向こう1か月の平均気温は高い確率80%である。

《発生しやすい条件：気温が高いと世代間が短縮し発生回数が多くなり、被害が多くなる。》

2 防除上注意すべき事項

- (1) ほ場をよく見回り、葉の先端部のかすり状の症状や白変葉、若齢幼虫の発見に努め、早期防除を行う。
- (2) 卵塊や若齢幼虫の集団を見つけたら速やかに取り除き、ほ場外で処分する。
- (3) 中老齢幼虫や、葉の内部に食入した後は農薬の効果が低下するので、若齢期の防除適期を逃さないよう注意する。
- (4) 雑草にも寄生するので、ほ場周辺の雑草を除去する。
- (5) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続散布を避ける。

【その他の病害虫の発生予報】

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	特記事項
作物全般	アブラムシ	—	並	各種トラップ調査による有翅アブラムシ飛来数は平年並～やや少ない。
イネ	いもち病（穂いもち）	—	やや少	現在までの穂いもちの発生量は平年並。葉いもちの発生量は平年よりやや少ない～少ない。葉いもちが少発生であっても、穂いもちが発生する場合があるので注意する。
	稲こうじ病	—	並	現在までの発生量は平年並。
	もみ枯細菌病	—	並	現在までの発生量は平年並。
	斑点米カメムシ類	—	並	現在までの発生量は平年並であるが、中山間地域でやや多い。8月4半旬のすくい取り調査の結果、東部地域の畦畔又は休耕地内で、アカヒゲホソミドリカスミカメが平年より多く、ホソハリカメムシが平年よりやや多い。
	ツマグロヨコバイ	—	並	現在までの発生量はやや少ない。8月4半旬のすくい取り調査の結果および8月の予察灯による誘殺数は平年より少ない。これから発生ピークを迎えるので引き続き注意する。
	セジロウンカ	—	並	現在までの発生量は平年並。8月4半旬のすくい取り調査の結果は平年並。8月の予察灯による誘殺数は平年より少ない。これから発生ピークを迎えるので引き続き注意する。
	ヒメトビウンカ	—	並	現在までの発生量は平年並。8月4半旬のすくい取り調査の結果は平年並。8月の予察灯による誘殺数は一部地点で平年より多い。イネ縞葉枯病感受性品種栽培地帯では、イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率を低減するため収穫後は速やかに耕起し、ひこばえを処理する。
	ごま葉枯病	—	並	現在までの発生量は平年並。
	白葉枯病	—	並	現在までの発生量は平年並。
ダイズ	吸実性カメムシ類	—	並	現在までの発生量は平年並。8月の予察灯によるイチモンジカメムシの誘殺数が平年よりやや多い。
	フタスジヒメハムシ	—	並	現在までの発生量は平年並。
	マメシンクイガ	—	並	現在までの発生量は平年並。
	紫斑病	—	並	現在までの発生量は平年並。

作物名	病虫害名	発生時期	発生量	特記事項
果樹全般	カメムシ類 (チャバネアオカメムシ)	—	やや少	フェロモントラップ調査による誘殺数は 平年よりやや少ない。予察灯(水銀灯) 調査による誘殺数も平年よりやや 少なかったが、8月中旬から増加して いる。
リンゴ	斑点落葉病	—	並	現在までの発生量は平年並。
	炭疽病	—	並	現在までの発生量は平年並。
	スモモヒメシンクイ	—	並	フェロモントラップ調査による誘殺数 は平年並。
	キンモンホソガ	—	並	フェロモントラップ調査による誘殺数 は平年並。
ナシ	ナシヒメシンクイ	—	並	現在までの発生量は平年並。フェロモ ントラップ調査による誘殺数は平年並 だが、一部地域でやや多い。
	黒星病	—	並	現在までの発生量は平年並。
ダイズ類 野菜類 花き類	ハスモンヨトウ	—	並	野菜類・花き類について、現在までの 発生量は平年並。ダイズでの発生量は 平年よりやや多いため注意する。
キャベツ	黒腐病	—	並	現在までの発生量は平年並。やや低温 で降雨が多いと発生が助長されるため 注意する。
	菌核病	—	並	現在までの発生量は平年並。発生適温 は15～20℃。多湿条件で発生が助 長されるため注意する。
	コナガ	—	並	現在までの発生量は平年並。ほ場をよ く見回り、若齢幼虫のうちに防除を行 う。
	タマナギンウワバ	—	並	現在までの発生量は平年並。ほ場をよ く見回り、若齢幼虫のうちに防除を行 う。
夏秋ナス	ハダニ類	—	並	現在までの発生量は平年並。高温乾燥 条件で発生が助長されるため注意す る。
	アザミウマ類	—	並	現在までの発生量は平年並。
ネギ	軟腐病	—	並	現在までの発生量は平年並。
	ネギアザミウマ	—	並	現在までの発生量は平年並。
レタス	軟腐病	—	並	現在までの発生量は平年並。

【今月の気象状況】

関東甲信地方 1 か月予報

(9月9日から10月8日までの天候見通し)

令和5年9月7日
気象庁発表

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞

要素	地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信地方	10	10	80
降水量	関東甲信地方	30	40	30
日照時間	関東甲信地方	30	40	30

＜特に注意を要する事項＞

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

＜概要＞

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率80%です。降水量は、平年並の確率40%です。日照時間は、平年並の確率40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率80%です。3～4週目は、高い確率60%です。

＜参考＞前橋地方気象台観測平年値(9月)

	平均気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(時間)
1 半旬	25.2	35.4	22.9
2 半旬	24.5	36.4	22.5
3 半旬	23.6	38.1	22.4
4 半旬	22.4	36.9	22.0
5 半旬	21.2	31.5	22.0
6 半旬	20.3	26.7	22.4

農薬の登録内容は随時変更されておりますので、防除薬剤については指導機関にご相談ください。
また、以下のホームページでも確認できますのでご利用下さい。

◆ 農林水産省 農薬コーナー (農薬に関する様々な情報)

<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>

◆ 農薬登録情報提供システム (最新の農薬登録状況の検索や登録・失効農薬情報等)

<https://pesticide.maff.go.jp>

◆ 群馬県 農作物病害虫・雑草防除指針

<https://www.pref.gunma.jp/06/f0900064.html>

◆ 群馬県農業技術センター 病害虫発生予察情報一覧

<https://www.pref.gunma.jp/07/p14210015.html>

◆ ぐんま病害虫ライブラリー

<https://sites.google.com/view/g-byougai>



病害虫発生予察情報
一覧はこちら！